

環日本海交流に関するチャイナ・インターネットの一考察

3F-3

李健 飯島泰裕  
金沢大学

1. はじめに

昨年の5月に中国がインターネットに加入して以来、チャイナ・インターネットは急速に発達し、教育・科学研究用ネット及び商用ネットとして50個以上のサイトを世界に登場させた。これによって、チャイナ・インターネットの価値は、飛躍的に高められ、その利用が欠かせないものとなっている。本論文では、インターネットによる日本から中国へのアクセスの現状と問題点、また、環日本海経済交流におけるチャイナ・インターネットの利用について考察する。

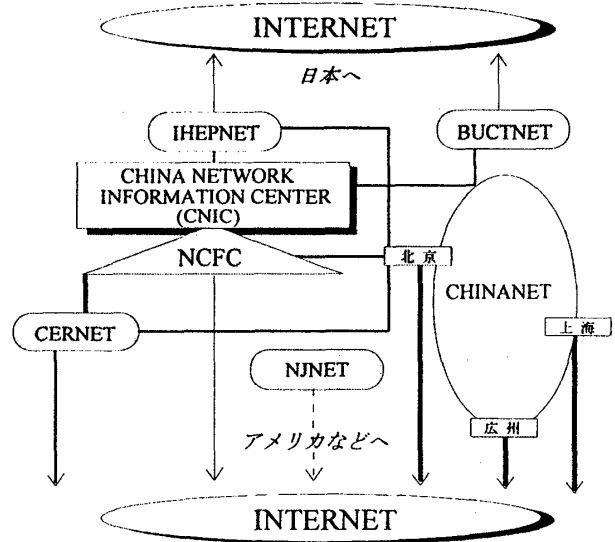
2. 中国から海外へのルート及びチャイナ・インターネットへのアクセス

中国以外からのチャイナ・インターネットの入り口は、現時点では、8本のリンクがある（表1）。各リンク間のつながり及びインターネットとの接続は、図1の通りである。

表1 チャイナ・インターネットのゲットウェイ

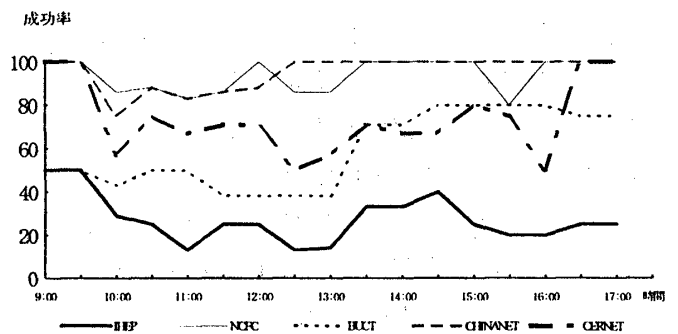
リンク名	速度	経路	種類	開通日付
IHEP	64Kb	北京から、上海及び日本の高エネルギー物理研究所	科学研究用	1994, 5, 19
NCFC	同上	北京から、米国立科学財団ネットワーク (NSFNET)	総合	1994, 5
BUCT	同上	北京から、東京理科大学とJVNCNET	教育・研究用	1994, 9, 20
CERNET	128Kb	北京から、アメリカのSprint社	教育・研究用	1994, 7
NJNET	不詳	南京から、行き先不詳	不詳	1995, 4, 6
CHINANET (Beijing)	2.04Mb	北京から、アメリカのSprint社	商用	1995, 6, 21
CHINANET (Shanghai)	同上	上海から、アメリカのSprint社	同上	同上
CHINANET (Guangzhou)	同上	広州から、香港とマカオ	同上	同上

図1 各リンクとインターネット間の接続



回線の利用状況を把握するため、日本から各リンクへのWWW接続状況について実測した。その結果が、図2である。全体としては、午前中より午後

図2 各リンクにおけるアクセス成功率



の方のアクセス成功率が高い。特にCHINANETリンクとNCFCリンクは、午後のアクセスが安定しており、接続までの時間も最短である。BUCTリンクとCERNETリンクは、日によってアクセス成功率が大きく変化しており、なかでもCERNETリンクは、最近アクセスしにくくなっている。また、IHEPリンクへのアクセスは困難で、週明け及び週末にはア

An Investigation on China-Internet Related to Communications around the Japan Sea  
Li Jian, Yasuhiro Iijima  
Faculty of Economics, Kanazawa University  
Kakuma-Machi, Kanazawa 920-11, Japan  
lijian@icews1.ipc.kanazawa-u.ac.jp

クセスが不可能な場合が多い。

### 3. 環日本海経済交流におけるチャイナ・インターネットの価値

環日本海経済交流におけるチャイナ・インターネットの大きな特徴として、次の二点があげられる。

一点目は、第八次五ヶ年計画（1991～1995年）が実施されている間に、中国の通信技術及び通信能力が目覚ましく成長してきたことである。環日本海の中国側にある東北三省における通信業の発展は、沿岸地域より少し遅れている。しかし、北京—瀋陽—ハルビン間の光ファイバ通信路が開通したことにより、CHINAPAC、CHINADDNなどの高速で便利なデジタル通信サービスを受けることが可能になった。遼寧省の主要経済都市である大連では、1994年に新設されたデジタル通信局により電子メールとEDIなどのサービスを受けられるようになった。現在、大連理工大学キャンパスネットワークが整備され、外国企業にインターネットへの接続サービスを提供するプロジェクトが進んでいる。こうした開発により、東北三省の活性化が進み、また、環日本海経済交流に関連する情報通信基盤は、一通り整った。これに対して、利用面は、その進歩に追い付いていない。例えば、地域交流の初期段階である文化、学術交流や、北陸地域にとっては主要な観光業では、電子メールや、WWWなどの使用が効果的であるが、今のところ利用されている例は少ない。環日本海経済交流を発展させるために、中国向けの情報転送ルート（専用のサーバや、ホームページなど）を早期に構築する必要がある。さらに将来、電子テレビやIRCなどの通信手段の利用が可能になれば、環日本海経済交流はいよいよ活発化するであろう。

二点目は、数年前から中国各地域、または各業界において、様々な情報処理センタでデータベースが構築されていることである。これらによって、国内の情報提供・検索システムは、急速に発展し

ている。例えば、CUIN（China United Information Network）は、表2で示す即時検索サービスを提供している。

表2 CUINより提供される情報検索サービス

一般情報	国内外ニュース	経済予測と分析
経済情報	ネットワークニュース	国際貿易
合併投資の情報	経済開発区に関する法規とニュース	国家的プロジェクトの検索
金融情報	政府の政策と法規	国際入札募集
需給情報	新製品と新しい技術	企業の動向
不動産情報	特許と技術の譲渡	中関村パソコン市場の動向

中国がインターネットに参加したことにより、このようなオンライン資源を国外でも使えるようになってきた。これによって、文化・学術交流は勿論、中国への進出する企業にとっても大きな情報源となっていくだろう。また、チャイナ・インターネットを用いて、次世代を担う生産・販売システムの一つであるCIM(Computer Integrated Manufacturing)システムが構築されれば、日本、特に北陸の企業はさらに地理的優位性を活かして、中国の市場変化や需要などに素早く対応でき、それは企業の競争力強化となり、地域の活性化に繋がることと考えられる。

### 4. まとめ

本文では、急速に発達しているチャイナ・インターネットに対する調査及びWWW接続状況の実測をした。また、チャイナ・インターネットを利用する必要性について述べ、さらに今後の課題となる専用の情報転送ルートと企業の情報システムの早期構築を建言した。

#### 参考文献

- [1] Yuan LIU, Wei LIN: 「First Public On-line Service Opened」, CINET-L Newsletter, Issue No. 40
- [2] ZHU Qiang: 「Latest Development of Internet in Mainland China」, CINET-L Newsletter, Issue No. 46